

「エリートづくり」の市立高校中等教育学校化に待った！

●市内中学生の増加の中、定数減でいいの？

●市外の子どもに市税投入し、市民の子は市外へ進学？

計画の可否から、市民の声を聞くべきです。

設も含めて、予算は約17億円、と発表しました。

プレハブ校舎作り 教育費を集中？

昨年度、茂呂小、境剛志小、宮郷中では恒久的なプレハブ校舎を作り、1億7千万円を浮かせました。赤堀東小では、多目的ホールを仕切って教室を作りました。「20万都市になったのに、旧町村時代よりひどい教育行政だ。」と、嘆く声も聞こえてきます。

その上、同じ公教育なのに中等教育学校だけは全て30人学級、英・数は更に少人数授業という不公平を作り出すのは、大変な問題です。

進学先せばめて “子どものため”？

伊勢崎市は人口増加地域で、児童数も増加中。来年度の市内の高校定員数は、中学3年生の7割です。

市立高校の1学年定員200人を中等教育学校では120人にし、「県内全域から優秀な生徒を受け入れたい」といいます。

これでは、今より多くの子が私立も含めた市外の高校に進学しなければなりません。

計画強行せず、白紙で議論を！

市は、開校を前提にした意見公募を今年度中に行うとのこと。しかし、市民アンケートでも反対が5割、よくわからないが2割、賛成はわずか4%と、議論や合意が不足しています（中面参照）。

計画そのものの可否を含め、市民や子どもの声にしっかりと耳を傾けるべきです。



国への「伊勢崎労働基準監督署の統廃合を行わないように求める意見書」

全会派一致で採択されました！

無料生活法律相談会

毎月第4月曜午後6時～
弁護士と市議会議員が親身に相談に応じます。要予約。左記議員または地区党事務所（25-4854）までお気軽にお問い合わせください。相談会以外の緊急の相談にも、応じます。

開校は2009年予定 場当たりな計画に疑問の声

08年度の開校を目指していた「(仮称)伊勢崎市立中等教育学校」は、施設整備が間に合わず09年度開校、という発表がありました。

教育委員会は、「基本構想」を確定する前に全中学校区で保護者説明会を開き、大学進学を前面に打ち出しました。しかし、公立の中等学校は最近の開校が多く、受験実績は未確定です。

場当たりの進め方に、疑問の声が上がっています。

整備費は17億円

「すべての子どもへのゆきとどいた教育こそが、市民の願い。」「教育予算全体の充実が、先決問題では？」

こういう声も起こる中、市は来年度にはエントランスホール（玄関）を解体し、開校までに4階建てで体育館・校舎を合築する、グラウンド増



北島元雄

TEL・FAX 24-8410
波志江町 3626
文教福祉常任委員
議会運営委員他



長谷田公子

TEL・FAX 25-1130
八幡町 44
総務常任委員
少子高齢化対策特別委員

市民の声が大観覧車建設を「延期」

総務省が「一体性認めず、合併特例債対象としない」と判断

十二月議会では

九億八八二六万円

で泉陽興業と契約

市民の1割を超す反対署名にもかかわらず、十二月議会に市長は工事の請負契約議案を提案。記名投票の結果、伊勢崎クラブ、公明党、正論の会の賛成で、議案は可決されました。

説明責任果たせ

長谷田議員が質疑
「合併記念になぜ観覧車なのか？」
「観光拠点にするというが、どんな観光ビジョンを持っているのか？」
「民間開発の呼び水にしたというが、本当に民間業者が進出してくるのか？」

「八万六千人の客が来れば人件費と電気代は出るというが、根拠は？」
などについて質疑して

きましたが、どの一つをとっても市民に納得がいく説明はありませんでした。

選定委員の民間人

三名は「マル秘」

企画提案方式による業

一万人の署名が大きく事態を動かす

「大観覧車より福祉・教育充実に」が、二〇万市民の願いです！

特例債無しで建設できず、白紙撤回を

一月十九日に市民団体「観覧車から伊勢崎を考える会（藤田壮洋代表）」が一万人を超す署名をそえ、大観覧車建設を合併特例債対象事業と認めないよう求める陳情を総務大臣に提出しました。

総務省は、この署名により「市民の一体性を作る事業とはいえない。」と判断

者選定に、二つの会社が参加し、企画書を提出。十一名の選定委員で審査しました。九名が助役と部長、三名が市民委員（市民代表一名、学識経験者二名）です。情報開示された資料の

市民委員三名の部分には、黒塗りでした。企画提案書もいまだ公開されず、選定の公開性・透明性に疑問が持たれています。

し、合併特例債対象事業と認められない、と伝えられました。

これを受け、緊急に一月二六日議会運営委員会が開かれ、大観覧車建設の「凍結」・「延期」が報告されました。総務省の判断が変わるような「賛成派」の市民運動が起きない限り市単独で建設するしかなく、実質的には「中止」しかありえませ



市民の声

「よかった。変なことで伊勢崎が有名になって残念でした。」
「あが大変なことは、して欲しくありませんね。」
「反対の声は、まだ広がっています。きっぱり、あきらめて欲しい。」



日本共産党市議団ニュース

2007年冬号 大手町11-23
電話 25-4854/ファックス 24-8204